

子どももの心、医療ミス……

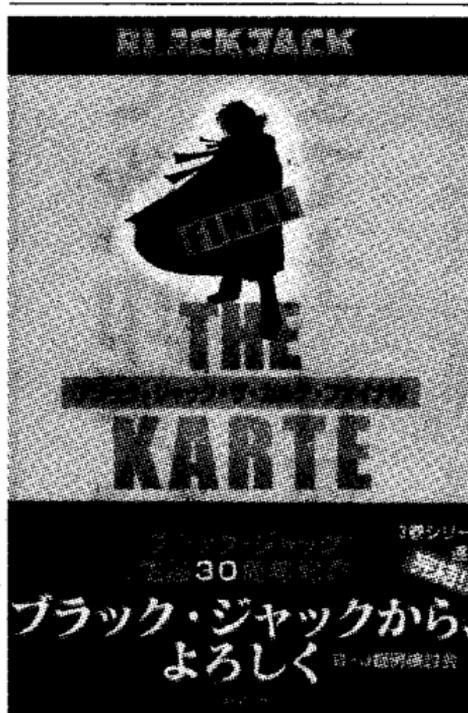
B・J検証本が完結

内外の
医師執筆

県内外の現役の専門医が、手塚治虫さんの医療漫画ブラック・ジャック(B・J)の奇跡的な手術例を検証する「ブラック・ジャック・ザ・カルテ」(海拓舎)の「ファイナル」が出版された。今の医療で問われるテーマについて「B・Jからメッセージ」と題し、医師たちの本音を盛り込

んだのが、この完結版の特徴。執筆に携わった長島公之医師(画)と壬生町IIは「医療の問題を考えるきっかけにしてみられれば」と話している。カルテはB・J好きの医師でつくる症例検討会の二十二人が執筆。県内では長島医師と、国際医療福祉大の医師が参加した。二〇〇一年夏に出版

された第一弾は三万五千部、第二弾は二万三千部が売れた。「ファイナル」



も、一カ月で一萬二千部売れたといい、「一時は品切れ状態になった」(発行元)という。

「B・Jからのメッセ

県内外の専門医が執筆した「ブラック・ジャック・ザ・カルテ・ファイナル」

「シ」は奇病、子どももの心、医療ミス、安楽死、告知、国家の大罪など九テーマ。

例えば医療ミスの項目で、ある医師はB・Jの

例を引きながら「(患者を診ずに)本を片手に治療を行えばミスが生じて当たり前。ミスが起こった後でも『今後はマニュアルを徹底して……』との

謝罪の辞になるのだから始末が悪い」と率直な意見を寄せる。別の項目でも医師の本音が披露されており、内容は漫画B・Jだけにとどまらない。

商店街関係者らが討論

まちづくりの在り方探る

パーソン 栃木

市民オンブズパーソン栃木は五日、宇都宮市今泉町の同市東コミュニティセンターで、シンポジウム「これでいいのかおらがまち―住民主体の

まちづくりを求めて」を開いた。県内各地の中心商店街の現地報告や欧州の街並みの紹介、宇都宮市の職員や地元商店街関係者らによるパネルディ

スカッションを行い「住民主体のまちづくり」の在り方を探った。市民ら約七十人が参加。最初に、郊外店進出が著しい宇都宮、佐野、